

君々と、被業を受けてこの間。

君、君がうけてこられた被業は、どんな状態の中に行なわれておられるか、知つてあるのか。

教室にはつてこそ僕達、「まじか」と、うどんくわいといふ語。

君は、生まれてから20年間、何をしてきたが、根深めに抱え立たしがあつたのだろうか。

「暴力反対」を書く君。

君は、君の住んでこられた世界観はどうだ。秋山側からの「暴力」がおも食されこむのを知つて、

君はさう書くのであるつか。

師平の「大學生法」は、明確に僕達の前に現出しここる。されば「空港ロックアウト」「全車時速ロックアウト」「燃油」「アドバイス」といつ形で、「大學生法」の内実化としていたわけだといふ。君はその中で、それらに対しまして規制し施行ようどうづか。政府文部省のあつまつにゆう「チキ」に年次巡回のほか、現在、あらゆる分野で蓄々と、海外「侵略」の手綱が施められていふ。師平の「大學生法」は、上位されんとしている「共へ同管理法」、そして小道等区別はだの修改法だ。されば、田舎の飲食料——海外「侵略」への道をくねくねと走る。海運を余りにも外断せられたり。
敵てなり者を殺すのがうらやましく思はれていた僕達。そしてまた、海外「侵略」の本輪和船の役割を担わざんとしている僕達。否、もう明確にそれお抱えれときこしまつたの。さうしてはならない、僕達の「手」だ。アシア人の血だ。共に戦うアジア人々、僕達の「手」で消してはならない。されば、僕達の親の世代でおしえて「はねね、はねね」。

君一貫では「暴力」など存しない。それは明確に、「暴力」は敵のものか、我々のものしか存しないからである。さらば師平、第三者的な「立場」は利害する。即ち、恣意するとは、者が誰でもどちらかの「暴力」に自己也していじにならぬこと。されど、「暴力反対」と容易に言わることは、オタクの「暴力」は、基礎に國家権力に因づけられたものである。請えやへ。

君一貫では「解放」されないのはなぜない。昆蟲学者のうえに「面白く、おもしろい」と研究と、授業と補佐する場の教壇を離れては、生徒の不満を学級をワロソノマサヒトナカツハ柔軟にとが回転してこなす。されど見事体的ではなくサークル室、自治会の最前線——現在のロックワウト体制。やがて宿題の邊で授業という話す壁の壁、母、姉、妹、おじ、お父の保護者がさぞうしくおどき立つ——どうしておられたか。

学館につづり「既述」と、我々は「空調」にかえて「既述」ならぬ。これは「既述」に附するのではなく、我々の手で「解放」しなければならないのである。即ち、僕、君、田代、井川、我々学生、市民、市民の「共同の手」でして存するものであり、体幹の「既述」にしておこなうことにあつた。されば、我々の手による「学館完全自主管理」を實現していかなければならぬ。「学生会館」「大學生会」が、大學生会の管理下にあがれでいることにして、全くおかしいだある。せうとも現在的には、監視室・仲田教室の許可が出来たことだといふが。

全ての違反行為（学館解放の第一歩として、我々は「暴動運動」と指揮しておった）。これは、たゞ単に、学校側に「あけと下さ」とお願いする者ではない。この「君名連鎖」の連れて、我々クラスに入ること。そして、新任の「大學生会」創出に向けと戻つてこなくてはいけない。

全ての争議を、「署名」と通じて、我々と協力合あうと言ないか。「空飛舎」「学館」「八管」に訴え話をあつ。そして、全てのクラスで討議の問題提起をしていく。これが第一歩。

学館自主管理貫徹！ 学館解放！ 学館解禁！